

病 院 だ よ り

International Goodwill Hospital

一人で悩まず、まず相談を

井出みはる

あなたの腎臓大丈夫ですか？

酒井 政司

ひよこ

松尾 史郎

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡1-28-1
TEL 045(813)0221 (代表)
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



病院だより



一人で悩まず、まず相談を

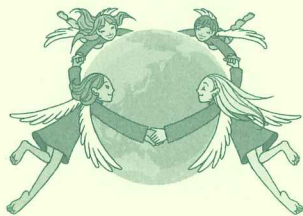


皆さんの中にもDV（ドメスティックバイオレンス）という言葉や法律があることをご存知の方も多と思います。配偶者や親密な関係にある相手から受ける暴力や社会的隔離などを指し、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」では殴る・蹴るといった身体的暴力のほかに、言葉による脅しや交友関係の制限、生活費を渡さないなども暴力の一部であると規定しています。

暴力を振るう側は、いつも暴力を振るうというわけではなく、多くのケースでは暴力の後に優しくしてくれる時期があり、時には土下座などをして暴力を振るったことに対して許しを請うなど、被害者側はこの暴力がなくなる時期が来る、自分だけが支えてあげられる、などの気持ちを持ってしまいがちです。そのために、なかなか逃げ出したり訴えたりできずにいることが多いのです。

法律の規定により保護命令が出されると、被害者身辺のつきまとい（子や親族等も対象）や住居、勤務先等の徘徊、電話や電子メール等の送付などの行為が禁止されます。また、この法律においては守秘義務が課せられる医療関係者からの通報を妨げるものとは解釈されず、緊急性のある場合には警察や専門機関へ通報する場合があります。

当院でも相談者の秘密を守り、専門の相談センターや避難先などのご相談に対応しています。神奈川県警の24時間相談は、**045-211-1212**（代）、平日の日中は**045-664-9110**ですが、その他にも専門相談窓口がありますので、勇気を持って医療福祉相談室ソーシャルワーカーや職員へご相談ください。



医療福祉相談室主任
社会福祉士（ソーシャルワーカー） 井出 みはる

“あなたの腎臓大丈夫ですか？”

「人は血管から老いる」ある偉大な医師の残した言葉があります。現在、世界各地で高血圧症・糖尿病・メタボリック症候群といった生活習慣病が激増し、同時に進行する高齢化社会も相まって動脈硬化性疾患が増加しており、脳卒中（脳梗塞・脳出血）や虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、そして慢性腎臓病（糖尿病性腎症・腎硬化症）といった病気が増え続けています。

現在、我が国において慢性腎臓病と診断される患者数は1,330万人（成人8人に1人）と推計され、さらに慢性腎臓病の最終段階となり腎機能が廃絶し透析療法を行っている患者数はもうじき30万人（国民450人に1人）を超えると予想され、正に慢性腎臓病は国民病であるとの認識がなされるようになりました。とりわけ我が国においては、世界に類をみない速度で人口減・少子・高齢化社会が到来しており、今後も更に慢性腎臓病患者数が増加し続け、またそれに関連した医療費の高騰が予想されています。

慢性腎臓病の多くは数十年に及ぶ歪んだ生活習慣病に由来しており、一朝一夕でなるものではありません。また初期においては特段の自覚症状がないため、知らず知らずのうちに進行していきます。そして一旦腎機能障害が進行してしまうと機能を回復させる特效薬がある訳ではなく、機能低下を緩やかにし透析導入までの期間を延長させる術しかありません。それでも透析患者さんは毎年1万人ずつ増加し続けているのが現状です。「慢性腎臓病」と言われた日から、いや、言われる前から正しい生活習慣を身につけ、健康を維持し病気を未然に予防していく考え方が大切だと思われます。健康懇話会では、慢性腎臓病の現況について概説し、食事・運動療法や薬物療法などの治療法についてお話をさせて頂く予定でおります。

腎臓内科部長 酒井 政司

ご案内

このテーマは

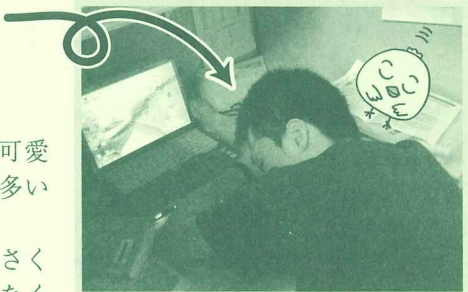
平成22年9月10日（金）15：00～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

（入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。）



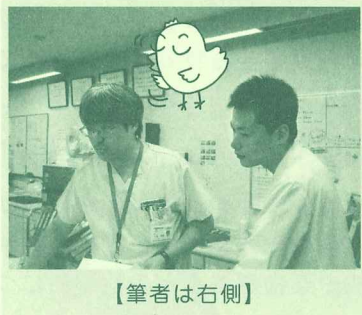
ひよこ



本来、“ひよこ”と聞けば、可愛いイメージを思い浮かべる方が多いでしょう。

僕もそうです。黄色くて、小さくて、泣き声も愛らしく、どことなく危なっかしくて守ってあげたくなるような存在。それを研修医という生き物に当てはめたら・・・あら不思議!! 一転、黄色くなくて可愛くないし、指示は遅いし、質問しても明確な答えが返ってくることは少ないし、守ってあげたくなるどころか、「しっかりしなさい!」と何度も言いたくなるし(…以下省略)。

当院で初期臨床研修を幸いにも開始することができ、早や4ヶ月が経ちました。ひよこは、まだまだひよこ、からだは大きくなるどころか、体重は順調に減ってきました。日々のボディシェイプアップ体操の成果? いやいや、階段の昇り降りにそんな効果は期待できないはずです。ストレス? いやいや、こんなに素晴らし病院で研修する機会を得ているのに、そんなものある筈がありません。



【筆者は右側】

この8月からは、腎臓内科での研修が始まっています。握り拳程度の小さな腎臓という臓器は、私たちが寝ている時も、仕事でてんでこ舞いしているときも、変わらず尿を作り続け、体内の液体の恒常性を調節し続けてくれている臓器です。

そんな臓器に対して、こんなひよこのために愛と情熱を傾けご指導下

さっている、指導医をはじめとする全ての医療スタッフの方々、職員の方々に対して、本当に感謝の尽きない毎日です。

いつか親鳥になったとき、医師としての人生最初を国際親善総合病院で学んだからこそ、と胸を張れるような、そんな2年間にしたいと思っています。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

研修医 松尾 史郎

